米(マイ)コミュニティ構想!!

ここがポイント

筑波北条米という地域資源を活かし、人とものの交流による街の活性化を目的として、地元住民・商店主と大学生等が連携して新事業を展開。

北条ふれあい館岩崎屋

【取り組みの背景】

北条商店街は筑波山への登山道（現在のつくば道）の入り口にあり、昭和４０年代ごろまでは商業の中心地として栄えていたが、研究学園都市の建設や郊外店の進出などで年々元気がなくなってきていた。

平成１７年のつくばエクスプレスの開業前に、筑波山麓という地の利を活かした活性化策を打ち立てようと、平成１５年から地元住民・商店主と大学生等がワーキングチームを立ち上げた。

【取り組みの概要・経過】

北条商店街は江戸時代から昭和初期に建造された店蔵等の伝統的な街並みが残っており、かつては「市（いち）」が盛んに行われていた。

平成１９年より、筑波大学生・大学院生と北条商店街とが協働し北条街づくり振興会を設立、つくば市の補助を得て「北条市（いち）」を復活させ継続開催することにより、広く市内外の農業・商業・工業及び観光業が連携した新しい事業展開が始まった。

まず、茨城県及びつくば市の補助を得て蔵づくりの空き店舗を活用した情報発信基地「北条ふれあい館岩崎屋」をオープンした。地元商品やオリジナル商品の販売、ギャラリー、喫茶等に活用され交流の拠点となっている。

さらに、ブランド米として有名な「筑波北条米」を練り込んだアイスクリーム「北条米（マイ）スクリーム」を商品開発し、岩崎屋や商店街内個店で販売している。

また、商店街と地域住民とのコミュニティ形成を目的として、筑波北条米を担保とした米本位制の地域通貨「マイス」を発行するとともに、１００円商店街ならぬ「１００マイス商店街」を実施して、期間限定の流通実験を行った。

その他、郷土史研究家による「北条歴史探訪」等各種講座を実施している。

【取り組みの効果】

「北条市」では地元農家で栽培された安心・安全な農産物等の販売が行われ、毎回多くの人で賑わっている。また、地元中学生のキャリア育成事業に賛同し、

商品の仕入・制作販売の体験の場を提供している。

「北条ふれあい館岩崎屋」の開店・運営の結果、街の認知度が深まり、北条商店街への来街者が増加し、物の交流のみならず、情報や市民と観光客の交流創出も実現でき、活発な事業展開が図られている。

一方、「北条市」に参加した大学生等の中には、北条を気に入って居住地を移転した者もあり、また、出店者の中には、北条商店街内にある空き店舗を活用してカフェを開業した者もいる。

筑波大学主催のシンポジウムに取り上げられたり、ＪＲの「駅からハイキング」の行程に選定されたりと注目を浴びるようになった。

【今後の課題など】

「北条市」は年４回（春・夏・秋・冬）の開催という限定されたものであるため、商店街全体の年間を通じた活性化にまでは至っていないのが現状である。

今後は市内大学・専門学校・高校・中学校をはじめ、つくば市商工会会員企業・北条街づくり振興会・筑波山麓のまちづくり事業に取り組んでいる NPO 法人及び団体と連携して、地元商店の店舗を活用した出店、交通規制（歩行者天国）による会場の拡大などを行い、開催日の増加及び継続発展に取り組む。更なる街の賑わいを取り戻し、何度もこの北条商店街を訪れ、街の人々と交流し、北条の良さ・伝統的な街並み・懐かしい商品・職人の光る技など、これまで受け継がれてきた様々なものに触れていただく場所の提供を今後も目指していく。

【北条商店街】

所在地：茨城県つくば市
会員数：５９名
店舗数：９０店舗
商店街の類型：近隣型商店街
URL: http://www.hojo-fureaikan.jp/

【この商店街にこの人あり】

坂入　英幸
平成１５年より北条商店会会長。平成１９年設立の北条街づくり振興会会長として、街の活性化のため、東奔西走している。時計店の３代目店主でもある。

【うちの商店街、ここが自慢】

・筑波北条米を練り込んだ「北条米（マイ）スクリーム」

筑波登山のお土産としても大人気

・首都圏にありながら歴史を感じさせる街並み。
・子供たちを含む住民が，気楽に観光客にも声かけをする「古き良き日本」のコミュニティが残る街。
・「北条街づくり振興会」は北条商店街、地域住民、大学生等商店街を応援したい人々からなる組織。資金提供、ボランティア、デザイン、アイディア提供等それぞれができる範囲で協働している。
・「茨城県がんばる商店街支援事業」に採択され注目を集める。

商店街が「よそ者・若者」と一緒に町づくり!!

ここがポイント

商工会議所により、地元大学生がゼミ活動の一環として経営する地産地消の飲食店、新名物「にら焼きそば」を提供するチャレンジショップが開業。

現在、商店街をあげて経営のバックアップをしており、よそ者・若者と商業者が日々膝を突き合わせて活動している。

大学生によるチャレンジショップ

【取り組みの背景】

まろにえ２１は、既存の町内単位の商店街活動に対し、早くから危機感を有した商業者が町内を越えて結成した商店街である。

ロケーションは地方都市の駅前で、市のメインの国道が商店街の南北を縦貫しており、バスの主要路線とバス停がある。各店とも恵まれた商環境を活かして古くからの顧客を多く抱えている。

平成１１年から昨年まで、商店街内にあるホームセンターの駐車場を週末の早朝に借り受け、継続的に朝市を開催してきた。

例年秋口には大オークション大会も開催しており、これまでの地道な活動を通じて商店街内のチームワークも良く、大きなイベントも商店街で企画・運営できるノウハウを蓄積している。

また、地方都市における駅前商店街のあり方を念頭に行動しており、イベント時には駅と連携した活動も行っている。

駅周辺は平成２４年にかけて再開発中であり、地元の商業者として駅をこれまで以上に取り込んだ商業活動を行いたいとの思惑もある。

【取り組みの概要・経過】

平成２０年、商店街の空き店舗を利用し、地元大学生がゼミ活動の一環として経営する地産地消の飲食店がオープン。

全国的にも珍しい大学生による通年営業のチャレンジショップということで、商業者、大学生、商工会議所の三つ巴で日々悪戦苦闘しつつ店舗を営業している。

商店街の各店にチャレンジショップの割引券を設置したり、商店街をショッピングモールに見立てたチラシを作成することで、訪れた顧客にもうワンコイン消費してもらい、商店街の回遊性を向上させるような工夫を積み重ねている。

夏には市民に有料で夕顔とネットを３５０セット配布し「緑溢れる街並みにしよう」というグリーンカーテン運動を展開。秋にはチャレンジショップを投

票所とした夕顔のフォトコンテストも開催している。

１１月には商店街において毎年恒例の「まろにえ２１」大オークションを大々的に開催、約３００アイテムの出品があり、大勢の人出で賑わった。

１２月は商店街をあげてイルミネーションによるライトアップも行っており、営業時間外も人通りが多く、防犯面でも非常に効果がある。

商店街情報満載のチラシ

【取り組みの効果】

大学生によるチャレンジショップのある商店街は目新しさからマスコミ等に大きく取り上げられており、商店街の集客力・知名度が向上している。

チャレンジショップの「よそ者、若者」による創業を支援し、日々の経営をサポートする事で商店街組織、商業者個人としても新たな発見があり、経営力の向上に寄与している。

商工会議所と事業内容について協議を重ねる事で、局地的な視野に立ちがちな商店街活動に幅が出てきており、近隣商業者からも非常に注目され、商店街組織の拡大も期待されていれる。

また、大学生がブログを活用して商店街活動の情報を発信している。

【今後の課題など】

これまでと同様、新規の顧客が継続的に商店街に来店するような新しい企画・運営に組織的に取り組み、商店街を訪れた顧客をこれまで以上に個店の売り上げに反映させること。

【まろにえ２１】

所在地：栃木県鹿沼市
会員数：１５名
店舗数：１５店舗
商店街の類型：近隣型商店街
URL:http://www.kanumaitown.com/shop_info/shop_info.php?shop_id=00011

【この商店街にこの人あり】

まろにえ２１会長　大関　浩司
(㈲大関種苗園代表取締役)
「まろにえ 21」最年少でありながら発足当初から会長を務めており、スタミナ溢れる行動力で商店街を牽引している。華麗な彫刻屋台が繰り出す「ぶっつけ秋祭り」において、町内の取りまとめ役である若衆頭を長年務めている。
本業の種苗園も、県下随一の品揃えと豊富な商品知識、きめ細かな顧客対応により非常に好調である。

【うちの商店街、ここが自慢】

個性豊かな商店主の結集した商店街であり、なにか取り組む事項があれば「よしやってみよう！」ととにかく行動あるのみ、固い結束が事業の答えを良い方向へ導いてくれる。
親切で小回りが利き、バラエティに富んだ店が揃う、身近なショッピングモールのような商店街である。

イベントから生まれる交流により新規創業者が創出、地域が活性化!!

ここがポイント

「下町夜市」での交流は、新規創業者を創出、また既存店も商店街のブランド化を考え活性化に寄与。毎月１回行われる夜市は地域住民のコミュニティ創出の場となっている。

下町夜市の風景

【取り組みの背景】

組合員の後継者難による脱退と店舗用地の空き地化が進んでいる商店街で、地域活性化につなげるべく、平成１１年から全国の朝市や物産市を視察するなど勉強会を重ねてきた。

車の交通量はかなり激しい通りであるが、歩行者の通行がほとんどないため、まずは人に歩いてもらおうということで、集客効果があり空き地の有効利用もできるような事業について検討を行った。

【取り組みの概要・経過】

商店街や市民ボランティアにより、平成１６年１０月から毎月第３土曜日夜に「下町夜市」がスタートした。

■これまでの下町夜市で行ったこと

・チャレンジショップ事業

いずれ中心市街地に出店をという意欲のある飲食店約２５店舗が簡易テントで営業。

・商店街各店によるセール

・ウォークラリー事業

商店街とチャレンジ出店者が豪華賞品を提供。商店主たちから面白い問題が出され、親子連れにまちなかで楽しく交流していただきながらゴールを目指す。

・下町音楽横丁

毎回、数多くのアマチュア演奏者がボランティア参加により空き地のステージや歩道などで演奏。

【下町夜市１周年記念事業】（平成１７年１０～１２月）

・下町夜市１周年記念ＣＤ制作事業

・ボランティア表彰制度

・まちの家（テントハウス：したまちパオ）設置事業

【下町夜市３周年記念事業】（平成１９年１０月）

・県立館林商工高校の生徒による「ぐんまミニ物産展」

・下町夜市３周年記念ＤＶＤの作成

・下町夜市３周年記念写真展

・夜市オリジナル提灯の作成

・音楽横丁（ステージ）の運営
・商店街によるサンサンセール（商店街が３３０ｍあることからネーミング）
・夜市出店者による３周年記念メニュー
【下町夜市５０回記念事業】（平成２０年１１月）
・市内中学生によるＪＡＺＺ演奏
・市内中学生による商業体験
・女流落語家「桂　右團治」による下町寄席の開催

【取り組みの効果】

平成１６年から開催した下町夜市により、市内外での知名度が上がった。また、下町夜市終了後に毎回反省会を開き、改善点を話し合い毎回改良を加えているため、マンネリ化が少なく顧客のみならずスタッフも飽きないため事業の継続が図られた。

１周年事業、３周年事業、５０回記念事業と節目での大型事業を行うことにより関係者の拡大が図られ、当初は無かった部会の増加につながり現在では音楽部会、芸術部会、レイアウト部会という部会が発足し、したまちパオなどで展覧会などを開くようになり地域コミュニティの復活に寄与した。また下町夜市から新規創業者も現れ、商店街振興にも繋がった。

【今後の課題など】

現在、下町通りの道路拡幅事業が進行中である。道路を整備することにより安心して買い物ができる空間が創出されるが、地域の商業者がそれをどう活かしながら下町夜市を継続させるかが、魅力ある商店街づくりの大きな課題である。

近隣大型ＳＣなどの進出により一般的な需要は望めない中、商店街でなければ買えないブランド化した商品などの開発も行い、それを下町夜市で試験販売するなど下町夜市を利用した商店街のマーケティングを行い、商店街振興につなげることが課題となっている。

【たてばやし下町通り商店街振興組合】

所在地：群馬県館林市
会員数：３４名
店舗数：２７店舗
商店街の類型：地域型商店街
URL:http://www.374-map.jp/blog/shita/

【この商店街にこの人あり】

・村田　征史
（たてばやし下町通り商店街振興組合理事長）
大正２年から当地で営業している靴の夢良多屋の店主。大きな体と大きな心で、商店街の運営に奮迅しており、商店街のみならず、ボランティアの方々からも信頼される存在になっている。
・三田　英彦（下町夜市実行委員長）
昭和３年から営業している老舗文房具屋、三田三昭堂の店主。「下町夜市」では実行委員長として商店街、市民、行政など様々な関係者の取りまとめなど「下町夜市」のために深謀遠慮しながら、東奔西走している。

【うちの商店街、ここが自慢】

したまちパオという地域の寄り合い所を材料だけ買って商店街の有志で建設した。
パオでは写真家の展覧会や地域の会議、絵画の作品展などを行い、地域コミュニティ振興に役立っている。
建設に際して、商店街有志が携わったように何といっても人がいいのが自慢である。

地域との強い連携で
にぎわいづくり!!

ここがポイント

大型店や大学さらには地元団体との連携で多彩な事業を展開。

アポポ商店街

【取り組みの背景】

入間駅前の区画整理をきっかけに誕生した商店街であり、愛称を全国公募した。全国から２８２６通の応募があり、選考委員会で学生の意見により採用され、商店街の正式名称となったのが「アポポ商店街」である。”アポポ”とは「アっという間に人がポこポこ集まる街」という意味であり、これを目標にして、近年では「ナンバーワンより地域のオンリーワン」をテーマに、様々な取組を進めている。

【取り組みの概要・経過】

①　いるまんなか協議会

大型店４店と二つの隣接商店街が共同で行う事業をサポートするために発足した。大型店や商店街のスタンプが揃うと抽選ができるスタンプラリーなどを実施している。

②　サマーフェスティバル

商店街最大のイベントで、毎年８月の最終土曜日に開催される。

米軍横田基地所属バンド、地元小・中学校のブラスバンド、和太鼓、ジャズ演奏など、街中がステージとなる。

国際屋台村では十数カ国の料理が味わえ、フリーマーケットも７０店程参加。ＮＰＯ法人「あいくる」（子育て支援）やおおぎ第二保育園等の協力で、ゲーム等が楽しめる「こども広場」も開設している。

サマーフェスティバルの様子

③　大学との連携

街区内に駿河台大学の「駿大ふれあいハウス」があり、イベントなどの際には企画段階から参加を得るなど、商店街を盛り上げている。

また、豊岡プチ大学を開催し、大学教授や地元の有志の話が気軽に聞けることでも好評である。

④　映画文化を考える市民会議

映画文化を根づかせるためにユナイテッドシネマと協働し、「映画文化を考える市民会議」を立ち上げ、自主的に映画を上映している。

⑤　伝統の祭りへの積極的な参画

地元の伝統ある「おとうろう祭り」に企画委員会を組織して積極的に参画、祭りの運営に協力している。

平成１９年には巨大な幟（のぼり）を四十数年ぶりに復活させる大きな原動力となった。

【取り組みの効果】

他商店街、大型店、地元団体、大学等との連携をアポポ商店街が仕掛けることにより、様々なイベントが地域全体のものとして行われるようになった。また、地域での商店街の存在感も高まった。

【今後の課題など】

商店街の新たな担い手を育成するため創設されたａｐｏｃｃｏ（青年部）が、郊外の大型商業施設とは異なった商店街の魅力を創出すべく、現在イラストマップ、逸品マップに次ぐ「専門店マップ（飲食編）」を作成中である。

さらには、今まで培った地域との連携力をより強化するとともに、地域の文化・歴史を活かし、特徴ある街づくりを目指す。

商店街で作成した「いるまんなかてくてくマップ」

【アポポ商店街振興組合】

所在地：埼玉県入間市

会員数：９７名

店舗数：約１２０店舗

商店街の類型：地域型商店街

URL: http://www.apopo.net/

【この商店街にこの人あり】

アポポ商店街振興組合専務理事

松井　秀男

２０代に青年海外協力隊員として２年間アフリカ・ケニア共和国に在住。現在は地元で建築の設計を行いながら、アポポ商店街のコーディネーターとして活躍中。

【うちの商店街、ここが自慢】

・商店街が地域・大型店とうまく連携して活動している。

・施設整備が充実している街区で多彩なソフト事業を実施している。

「稲毛あかり祭～夜灯（よとぼし）」の継続が地域コミュニティの再生に貢献!!

ここがポイント

半農半漁のまちであったその昔、行われていた遊びの漁「夜とぼし漁」をモチーフに、イベントの準備段階から地域住民（大学生、町内会、ガールスカウトなど多数の団体）と連携・協働し、手作り灯篭でまちを照らし、人々のつながりを育てていく取組。

稲毛あかり祭～夜灯

【取り組みの背景】

稲毛せんげん通り商店街周辺は浅間神社を始め、歴史を持った魅力が多く見られるまちである。しかし、せんげん通りは毎年行われる浅間祭りの時のみ賑わうばかりで、普段は車の交通量が激しく、歩く人の数も年々減少している。

「稲毛のあかりプロジェクト」を通して、地域の人々が稲毛に対する関心を高めるきっかけを作るとともに、地域内外に住む人々に商店街と稲毛のまちを知ってもらいたいとの思いから、このプロジェクトを発足させた。

【取り組みの概要・経過】

稲毛あかり祭は、半農半漁のまちであった昭和３０年代まで行われていた遊びの漁「夜灯し漁」をモチーフとして、５０００個の手作り灯篭で浅間通りを飾るお祭りである。H１８年から実施し、これまでに３回開催している。

手作り灯篭は、稲毛地区の小中学校の地域授業の一環で地域高齢者との世代間交流を図りながら作成し、竹灯籠も地元高校の生徒や住民が手作りする。イベントの準備段階から地域住民（大学生、町内会、ガールスカウトなど多数の団体）と連携・協働することで人々のつながりを育てていくことをも目的としており、この取り組みは、平成１８年千葉県商店街活性化地域連携モデル事業最優秀賞に輝いた。

毎年連携団体を増やし、地域の冬のイベントとして定着してきている。

【取り組みの効果】

お祭りは毎年多くの来場者で賑わい、商店街の認知度がアップした。

連携先の増加により、他の事業へと発展した。

【今後の課題など】

稲毛あかり祭が地域の伝統行事となるよう、

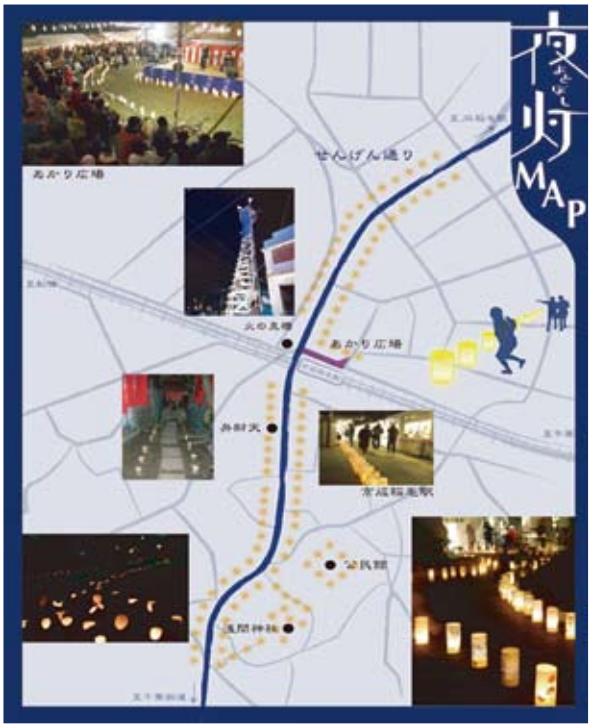
地域住民が日常において活動に参加できるような施設を設立する。

商店街と学生・地域住民の関係緊密化と更なる街づくり・街そだてを展開する。

（稲毛は密集市街地であり災害に弱い町と言われている。地域の高齢化･福祉･防災を考えるコミュニティの本格的始動のきっかけとしたい。）

地域住民に稲毛への愛着を生み出した成果をきっかけに、住民の中に同じ稲毛に住む人たち同士のつながりを育てていく。

雑踏警備と看護計画を立てる。



夜灯マップ

【稲毛商店街振興組合】

所在地：千葉県千葉市

会員数：３５名

店舗数：３３店舗

商店街の類型：地域型商店街

URL:http://www.hanae.ne.jp/inageen/yotoboshi/

http://www.hanae.ne.jp/i_ippin/

【この商店街にこの人あり】

夜灯実行委員会委員長　海宝　周一

商店街の仲間５人とともに、初年度夜灯の準備段階から意欲的に連携団体との交渉等活発に活動し、地道な努力により３年で１２０の地域団体を巻き込む事業へと発展させた。

商店街での取り組みは、一店逸品運動、地域の安心・安全に向けた取り組みへと幅広い。

【うちの商店街、ここが自慢】

・いなげ一店逸品

稲毛の個性豊かなお店が各店の自慢の一品を選び、お客さんへのおすすめ商品として販売促進するというもの。

逸品はお店ごとに勝手に決めるのではなく、１３の商店が研究会を作って商品を持ち寄り、厳しい意見をぶつけ合って１年かけて商品化している。